



糖尿病の薬の種類について<経口薬編>

厚生労働省の平成19年国民健康・栄養調査によると糖尿病が強く疑われる人は、約890万人であり、糖尿病の可能性を否定できない人を含めると、約2,210万人に上ると推定されており、その増加ペースは加速しています。

糖尿病は、幅広い年齢層で発症し、さまざまな病態をおこす疾病ですが、自覚症状が乏しいことから放置されていたり、あるいは治療を中断する人が大勢います。

糖尿病と診断されたら、病気や薬について知る事が治療の第一歩となります。

<糖尿病治療薬の種類—経口薬>

[1] **オイグルコン錠1.25mg・2.5mg グルタミール錠40mg グリメピリド錠1mg・3mg**

膵臓を刺激してインスリンを分泌させることにより血糖を低下させる薬です。インスリンがある程度分泌されている人に処方されます。グリメピリド錠はインスリン分泌を促すだけでなく、インスリンが十分効果を発揮できないインスリン抵抗性も改善するとされています。これらの薬は長期使用により膵臓が疲弊し、血糖を下げる効果が弱くなることがあります。

[2] **スターシス錠30mg・90mg**

膵臓を刺激してインスリンを分泌させることにより血糖を低下させる薬です。薬が効き始める時間が早く、効いている時間が短いのが特徴です。食後の高血糖を改善するために食直前に服用します。

[3] **ジャヌビア錠50mg**

インクレチンを分解する酵素のDPP-4(ジペプチジルペプチダーゼ-4)を選択的に阻害することでインクレチンの作用を高め血糖を低下させる薬です。インクレチンとは食事をとると刺激を受け消化管から分泌されるホルモンです。このホルモンがあるとインスリン分泌が増え、結果的に血糖を下げます。ジャヌビア単独では低血糖を起こさないと言われていますが、他の糖尿病の薬と併用すると低血糖を起こすこともあります。

[4] **ボグリボース0.2mg・0.3mg アカルボース50mg セイブル50mg**

食事の炭水化物は様々な消化酵素によって単糖類のブドウ糖に分解され、腸から吸収されます。ブドウ糖に分解される前の段階の酵素(α グルコシダーゼ)の作用を阻害し、食後の急激な血糖の上昇を抑えます。食直前に服用することが大切です。お腹がごろごろ鳴ったり、おならの回数が増える等の副作用があります。この薬を服用している時はブドウ糖でない低血糖が改善しません。この薬が処方されている方には薬局でブドウ糖をお渡しします。

[5] **メデット錠250mg、メトグルコ錠250mg**

肝臓や筋肉での糖の使われる量を増やしたり、消化管での糖の吸収を抑えたりして血糖を下げる薬です。

肝臓や腎臓の機能の悪い方に「乳酸アシドーシス」という副作用が起きることがあります。強い吐き気や嘔吐、呼吸が荒くなるなどの症状が出た時はすぐに受診して下さい

[6] **アクトス錠15mg**

脂肪細胞から分泌されるインスリン抵抗性惹起ホルモンを減少させ、インスリン抵抗性を改善する薬です。肥満傾向(BMI25以上)や、内臓脂肪がある場合はインスリン抵抗性が考えられます。注意する副作用に浮腫や体重増加があり、塩分やカロリー摂取が多い時に起こりやすくなります。

* 糖尿病治療は1種類だけでなく、2~3種類の薬を併用する事が多く、薬の種類が増えると低血糖などの副作用も起きやすくなります。他の薬との飲み合わせ、飲み忘れたときの対処方法なども薬によって異なります。

参考文献 治療薬マニュアル

どこの病院・診療所の処方せんにも対応できます。

(お薬によっては時間がかかることがあります) あすなろ武川薬局

TEL 0551-26-3800

FAX 0551-26-3810